

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第166冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第166冊
編著者名	竹原一彦・黒坪一樹・高野陽子・武本典子・有井広幸・菅博絵
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2016年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
やまだくろだいせきだいにじ 山田黒田遺跡第4次	よさぐんよさのちようかみやまだ 与謝郡与謝野町下山田	26465	09	35° 32' 24"	135° 07' 05"	20150721 ～ 20150826	53	道路建設
いずもいせきだいにじ 出雲遺跡第15・16・18次	かめおかしちとせちようちとせほか 亀岡市千歳町千歳他	26206	112	35° 03' 38"	35° 34' 29"	20121108 ～ 20121221 20130705 ～ 20131016 20140519 ～ 20140710	300 1,000 400	道路建設
くぐそういせきだいにじ 久々相遺跡第12次	むこうしてらどちようくぐそう 向日市寺戸町久々相	26208	67	35° 06' 16"	135° 28' 11"	20150123 ～ 20150305	160	道路拡幅

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山田黒田遺跡第4次	集落	弥生～平安	柱穴・土坑	須恵器・土師器	
出雲遺跡第15・16・18次	集落	弥生 古墳 平安 中世	土坑 竪穴建物跡・土坑 掘立柱建物跡・土坑 溝・土坑	弥生土器 石器・土師器 須恵器・土師器・瓦器 須恵器・土師器・瓦器・瓦質陶器・山茶碗・緑釉陶器・灰釉陶器・中国製陶磁器・布目瓦	
久々相遺跡第12次	官衙 集落	飛鳥 奈良～平安 鎌倉	溝 溝・柱穴 溝	須恵器・板状銅製品 須恵器・土師器 須恵器・土師器・製塩土器・瓦器	

所収遺跡名	要約
山田黒田遺跡第4次	今回の調査は、山田黒田遺跡のほぼ中央部に位置する。段丘裾部に位置する府道沿いに調査グリッドを連続する小規模調査となった。平安時代の遺構面上で柱穴3土坑1を確認した。下層には弥生時代中期から古墳時代前期の土器を包含する砂層の堆積が確認された。包含層内の遺物は段丘側からの2次堆積と判断した。
出雲遺跡第15・16・18次	平成23・24・25年度3か年にわたって農道整備事業として実施。15次調査では調査対象地全長700mに8か所のトレンチを配置し、16次で2か所計1,000㎡、18次で1か所400㎡を調査した。遺構は、弥生時代後期から平安時代にかけて検出され、弥生時代後期の土坑等2、古墳時代前期竪穴建物1・土坑2、古墳時代中期竪穴建物2、平安時代総柱掘立柱建物1・柱穴群・区画溝1ほかを確認した。出土遺物は、弥生時代後期土器、古墳時代前期から中期にかけての土師器、古墳時代中期須恵器・生駒西麓産等搬入系土器、平安時代後期土師器皿、瓦器碗皿、瓦質陶器、中国製陶磁器、山茶碗他布目平瓦、北宋銭等が出土している。平安時代末の区画溝は、多数の瓦器碗や中国製陶磁器当多彩な遺物が出土しており、遺跡の性格が目される。
久々相遺跡第12次	今回の調査は、府道拡幅事業に伴い160㎡を調査した。遺構は東西方向溝6条それより古く斜めに方向を振る溝3条、柱穴群を検出した。時期は飛鳥時代から鎌倉時代にかけているが、ほとんどが長岡京期以前の遺構であり、条坊側溝に類するものは確認していない。遺物は、飛鳥時代から中世にかけての須恵器が多く、土師器、板状銅製品が出土している。今回は、長岡京期以前の遺構が多く確認された点の特徴である。